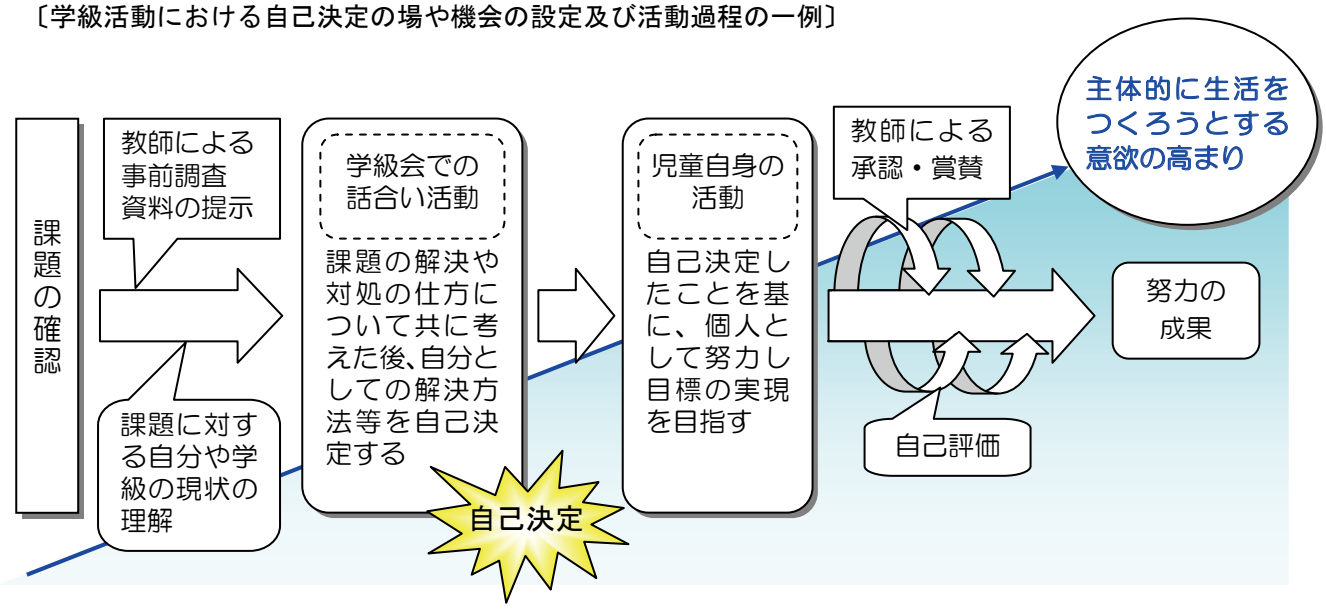
1　どうすればよいか自ら考え出したり選択したりする

児童一人一人が自己指導能力を身に付けるためには、自分の生活に関する問題について、その解決方法を自ら考え、実践し、解決に至る経験を、発達の段階に応じて積み重ねていくことが大切です。自分が属する集団における課題についても、同様です。

そこで、児童の学校生活の中に、そうした経験の場を位置付けていく必要があります。

例えば、学級活動の時間に、「日常生活や学習への適応及び健康安全」の内容として、個々の児童が共通に解決すべき問題を取り上げ、集団での話合いを通して、個人の目標を自己決定し、個人で実践するといった方法等が考えられます。

〔学級活動における自己決定の場や機会の設定及び活動過程の一例〕



また、学校行事等への児童のかかわり方も大切です。

せっかく準備された場や機会も、児童が単に参加しているだけでは、「やらされている」という他律的な印象をぬぐえません。「どんな気持ちで参加したいか」「どんな行事にしたいか」を問いかけ、考えさせることで、児童の主体意識は高まります。

さらに、自分はそこでどのような役割を果たすのか、どのような工夫を考え実践することが望ましいのかといったことを児童一人一人が理解することも重要です。「自分に任されている」、「自分なりにアイデアを出し高めていくことを期待されている」と感じることで、児童はより自発的・自主的な態度で取り組みます。

児童の活動を励ましたり評価したりする場合には、その活動の成果だけでなく、活動に取り組んでいるときの児童の意欲や態度を中心に評価を行うことが必要です。同時に、自らの取組を自己評価させることも大切です。

【具体的な実践事例】

○授業規律の大切さを話し合い、児童一人一人に目標を持たせて、授業に臨ませる
○帰宅後に家庭でどのように過ごせばよいか、個々の児童に考えさせる
○ボランティア活動の意義と参加するときの心構えを考えさせてから実践する

実践事例①：教室をきれいに保つ方法を考える

教室を、整理が行き届いた美しい環境に保つことは、児童の学習や諸活動への意欲を維持・向上させるためにも必要なことです。そこで、ある学校では、児童一人一人がどのように教室を使えばよいか学級会を開いて話し合い、以下の３点について取り組んでいます。

全員で守ること：	時間いっぱい、一生けん命清掃する。
係が責任を持って行うこと：	日直は帰る前に、机の列をきれいに並べる。
一人一人が気を付けること：	机の中やロッカーの中を整理整頓する。

全員で守ることと、一人一人が気を付けることについては、活動への意欲を高めるために、毎月、強調週間を設定し、自己評価カードを使って自己点検をしています。特に、よくできている児童や以前よりできるようになった児童については、その場での声かけやカードへの書き込みによって、賞賛しています。

また、学級での取組の様子を、学級だよりを使って家庭に周知し、家庭でも身の回りの整理整頓ができるように依頼しています。

今でも、教室内にごみが落ちていたり、掲示物がはがれていたりすることがありますが、この取組によって児童の意識が高まり、気が付いた者が進んでごみを拾ったり掲示物を直したりすることができるようになってきています。

効果を上げるためのチェックポイント

○　所属する集団と自分とのかかわりを意識させる

児童一人一人は個人としてかけがえのない存在であると同時に、学級や学年、学校の一員です。現在の学校生活でも、将来の生活においても、集団とのかかわりなくして生活は成り立ちません。「自己決定」の機能を重視して、「わたしはこう考えます」「わたしはこうします」と、きちんと意見が言えるようにしていく必要がありますが、あわせて共生の精神や公共の精神をはぐくみ、集団の一員として自分の発言や行動に対して責任を持たせることも必要です。

○　児童の取組をサポートする

児童が設定した目標や取組方法の中には、そのまま進めると過度な不都合を生じたり危険が予想されたりするものもあります。

こうした場合には、教職員が躊躇することなく指導・助言等のサポートをする必要があります。

ただ、このとき、児童の自発性や自主性を低下させることがないように配慮して指導することが大切です。

学校周辺の清掃ボランティア活動に取り組む

２　集団の在り方を約束し、守り合う大切さを実感させる

個々の児童がよりよく成長を遂げるためには、毎日の生活の基盤となる集団が望ましいものでなければなりません。しかし、ときには学級や学校生活の場において、児童の間で誤解や対立が生じることがあります。このような問題を児童が自ら見い出し、自主的に解決できるようにするために、一人一人の思いや願いを生かし、話合いを繰り返す過程で、望ましい集団活動の方法や実践的な態度を身に付けていくことが重要です。

望ましい集団活動とは･･･

ア　活動の目標を全員でつくり，その目標について全員が共通の理解をもっていること。

イ　活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え，話し合い，それを協力して実践できること。

ウ　一人一人が役割を分担し，その役割を全員が共通に理解し，自分の役割や責任を果たすとともに，活動の目標について振り返り，生かすことができること。

エ　一人一人の自発的な思いや願いが尊重され，互いの心理的な結びつきが強いこと。

オ　成員相互の間に所属感や所属意識，連帯感や連帯意識があること。

カ　集団の中で，互いのよさを認め合うことができ，自由な意見交換や相互の関係が助長されるようになっていること。

（小学校学習指導要領解説　特別活動編より）

【具体的な実践事例】

○児童会、委員会活動を中心に、生活目標の達成に取り組む

○「○○っ子のがんばり」と題して具体的な目標項目を掲げて取り組む

○「元気なあいさつができる学校」「みんなが黙って集合できる学校」など、全校生に呼びかけて学校の宝づくりをする

○宿泊体験学習の成果を日常生活へ生かすために、学習実施後、数ケ月間の学校生活を踏まえて報告会を実施する

実践事例①：児童に学校のルールを決めさせる

ある学校では、児童が主体的に提案し行動する児童会活動を推進することで、よりよい集団をつくろうという意識を高めています。

まず、生活を振り返り課題を発見します。例えば、廊下歩行が課題だと考えた生活応援委員会では、次のように取り組みました。

○全校集会で、児童が廊下歩行への取組を提案する。

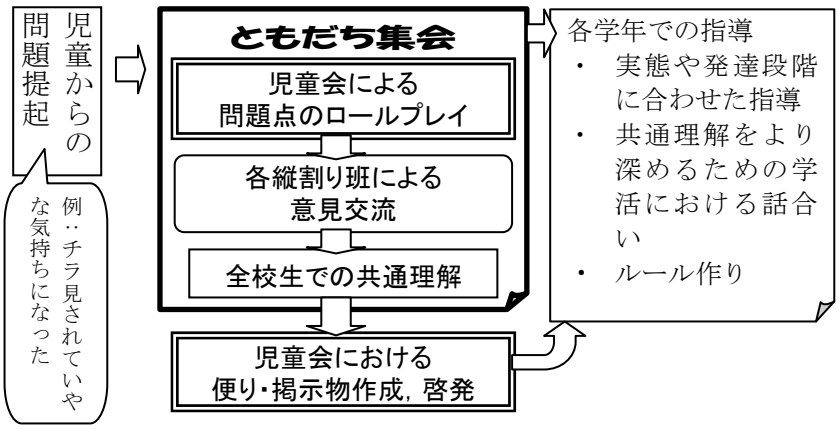
○昼休みに生活応援委員会の児童が校内をパトロールして、廊下の歩き方やスリッパの整頓の状況を点検し、きとんとできている児童や学級を見つけ、放送で紹介する。

○児童一人一人に「がんばりカード」を持たせ、期間中の自分の行動を自己評価させる。

これらの取組により、模範になろうとする姿やきまりを守ろうとお互いに声を掛け合う姿が見られるようになっています。

実践事例②：全校集会をきっかけに、全校生でマナーを考える

ある学校では、児童が提起した問題を児童会が全校児童に投げかけ、縦割り班での話合い活動によって学校のルール・マナーづくりに結び付けています。



児童会による問題点のロールプレイ

縦割り班による意見交流

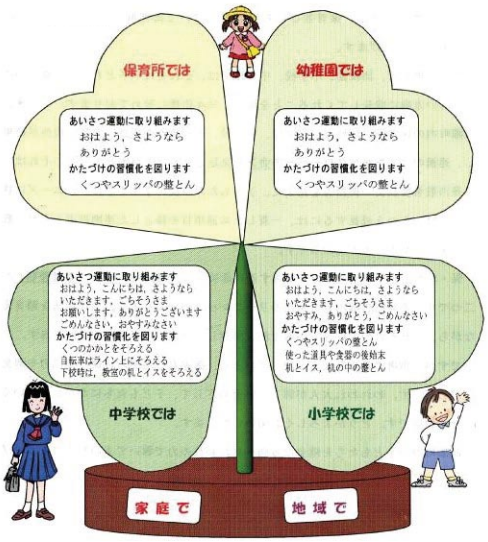
実践事例③：町のめあてを守るため、児童が主体的に取り組む

ある町では、保・幼・小・中が連携して片付けや整理整頓に取り組んでおり、小学校では児童が主体的にこのことに取り組めるよう、次のような工夫をしています。

○片付けと整理整頓を年間の生活目標に位置付け、朝の会や帰りの会、給食や清掃の後に、確認し合う時間を設けるなど、継続的に実践することで児童の意識を高めている。

○教師の声かけ、全体の場での紹介、記録カードの点検など、様々な機会を捉えて、進んで片付けや整理整頓ができている児童を賞賛することで、児童の意欲を高めている。

○学級だよりや学校だよりを利用して学校の様子を家庭に伝えるとともに、家庭でも片付けと整理整頓に取り組んでいただけるよう依頼し、学校と家庭の共通の取組にすることで習慣化を図っている。



これらの取組により、「使ったものは片付けること」が意識できるようになってきました。

効果を上げるためのチェックポイント

○　年間を通して計画的に取り組む

学級の課題を話し合わせ、みんなで約束させたいからといって、突然、学級会を開いても学級担任が期待するような活発な討議には至らないかもしれません。学級活動の年間指導計画に「(1)学級や学校の生活づくり」に関する項目をバランスよく位置付け、児童の力で話合い活動が円滑に運営できるように日ごろから集団を高めていくことが大切です。

○　学校の取組を地域ぐるみの取組に発展させる

基本的な生活習慣や学習習慣は、発達の段階に応じてすべての児童が身に付ける必要があります。幼・保、小、中の連続性を意識した「縦」の連携と同一中学校区内の小学校の「横」の連携を図り、地域ぐるみの運動として展開していくことが大切です。